

平成23年度 札幌医科大学 新任教員研修 (平成23年11月1日)

教育評価について (特に、授業評価)

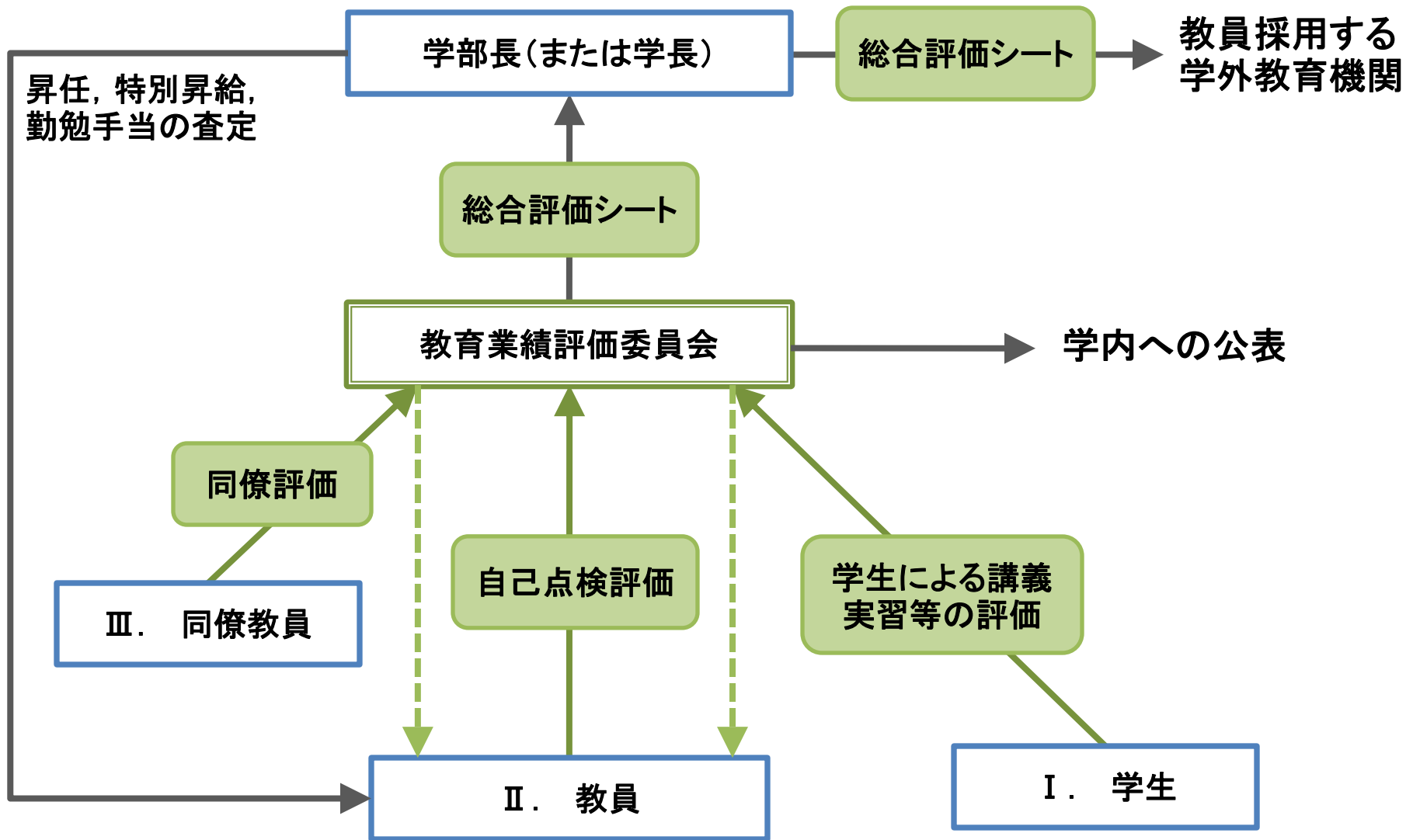
医療人育成センター 教育開発研究部門

相馬 仁

学生を評価する

教員を評価する

評価組織図および評価作業の流れ概念図



出典 : 21世紀における医学・歯学教育の改善方策について【別冊】
平成13年3月27日
医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議

〔 ---> フィードバック 〕

I . 学生による講義・実習評価について

①講義に対する学生評価

②科目全体の講義企画に対する学生評価

③臨床実習指導教員に対する学生評価

④臨床実習企画に対する学生評価

⑤基礎医学実習指導教員に対する学生評価

⑥基礎医学実習企画に対する学生評価

Ⅱ. 教員の自己点検評価項目

①教育活動実施記録

②講義に対する自己評価

③臨床実習に対する自己評価

④基礎医学実習に対する自己評価

Ⅲ. 同僚による教員の評価について

教員による評価

札幌医科大学教育評価委員会

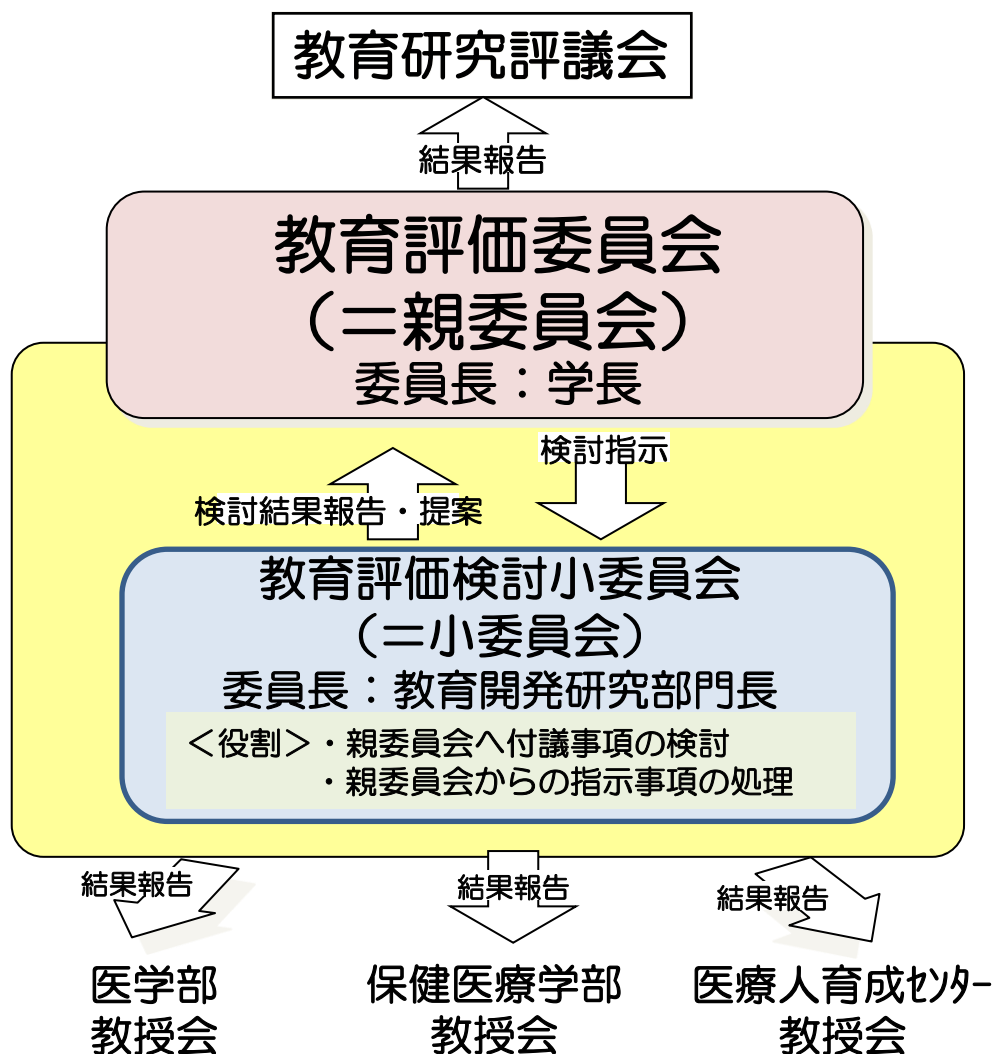
■目的

本学教員の教授能力の向上、本学における教育研究水準及び質の向上を図る。

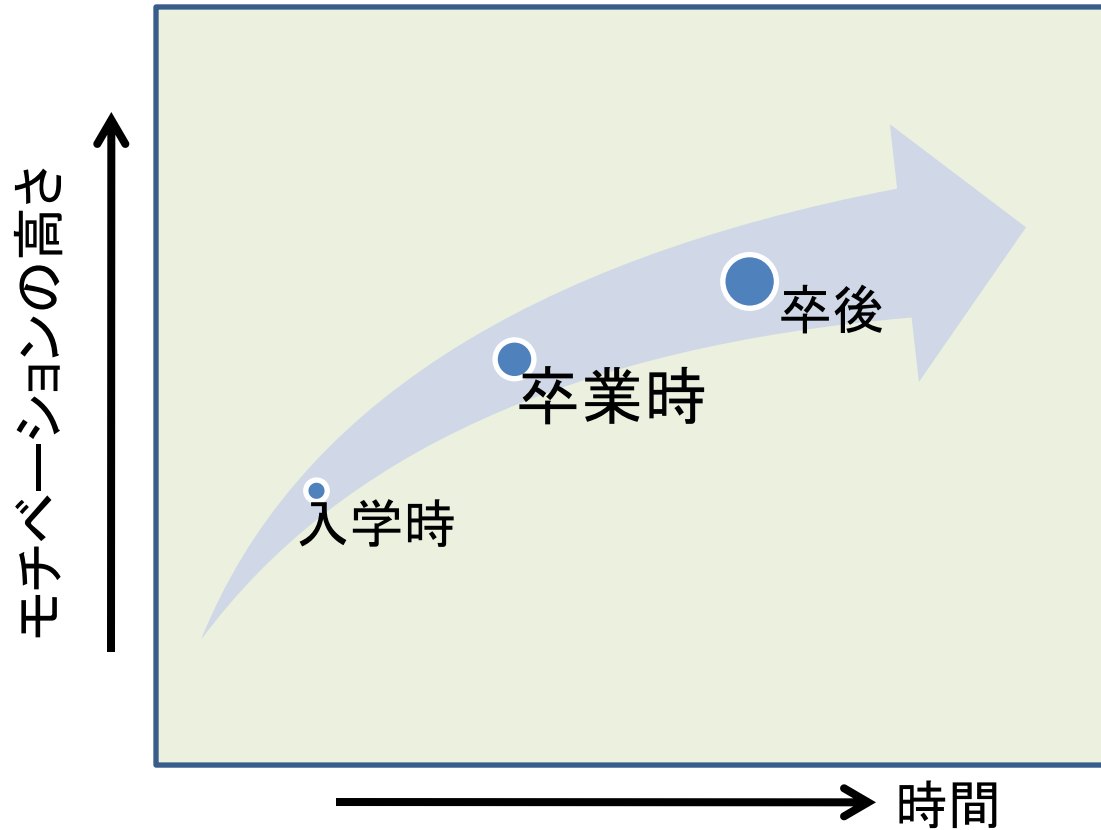
■所掌（審議）事項

① 授業評価に関すること ② 教員個人評価に関すること ③ その他教育評価に関すること

■関連図



求められる医療人育成教育の成果と評価



モチベーションをどう測るか？

- 勉学への関心
- 発展への気づき
- 協調性
- 能動的態度の獲得など

教育目的・価値の明確化



学生評価の視点見直し



教育改善を目指した
教員の教育評価
の必要性

入学時のモチベーション高めていく教育が必要

授業評価 アンケート項目（両学部共通）

- アンケート用紙（表）（5段階評価）

授業の運営	①授業内容は理解しやすかったか。 ②授業の準備は十分に行われていたか（教材や資料など）。 ③授業の学習目標は明確であったか。
教員の態度	④学生の発言や質問が求められ、積極的に対応されていたか。 ⑤授業は熱心に行われていたか。
学生自身の 自己評価	⑥自分はこの授業に熱心に取り組んだか。 ⑦この科目に関し、強い関心を持つことができたか。
総合評価	⑧総合的にみて、この授業は満足のものであったか。
自由設問	⑨～⑪

- アンケート用紙（裏）

自由意見

授業評価 アンケート用紙

表

※マークの仕方良い例 | 悪い例細い | 短い | つすい

科目コード				科目名																																																	
学	学	学																																																			
部	科	年																																																			
0	0	0	0	①a	②a	③a	④a	⑤a	⑥a	⑦a	⑧a	⑨a	⑩a	⑪a	⑫a	⑬a	⑭a	⑮a	⑯a	⑰a	⑱a	⑲a	⑳a	㉑a	㉒a	㉓a	㉔a	㉕a	㉖a	㉗a	㉘a	㉙a	㉚a	㉛a	㉜a	㉝a	㉞a	㉟a	㊱a	㊲a	㊳a	㊴a	㊵a	㊶a	㊷a	㊸a	㊹a	㊺a	㊻a	㊼a	㊽a	㊾a	㊿a
1	1	1	1	①b	②b	③b	④b	⑤b	⑥b	⑦b	⑧b	⑨b	⑩b	⑪b	⑫b	⑬b	⑭b	⑮b	⑯b	⑰b	⑱b	⑲b	⑳b	㉑b	㉒b	㉓b	㉔b	㉕b	㉖b	㉗b	㉘b	㉙b	㉚b	㉛b	㉜b	㉝b	㉞b	㉟b	㊱b	㊲b	㊳b	㊴b	㊵b	㊶b	㊷b	㊸b	㊹b	㊺b	㊻b	㊼b	㊽b	㊾b	㊿b
2	2	2	2	①c	②c	③c	④c	⑤c	⑥c	⑦c	⑧c	⑨c	⑩c	⑪c	⑫c	⑬c	⑭c	⑮c	⑯c	⑰c	⑱c	⑲c	⑳c	㉑c	㉒c	㉓c	㉔c	㉕c	㉖c	㉗c	㉘c	㉙c	㉚c	㉛c	㉜c	㉝c	㉞c	㉟c	㊱c	㊲c	㊳c	㊴c	㊵c	㊶c	㊷c	㊸c	㊹c	㊺c	㊻c	㊼c	㊽c	㊾c	㊿c
3	3	3	3	①d	②d	③d	④d	⑤d	⑥d	⑦d	⑧d	⑨d	⑩d	⑪d	⑫d	⑬d	⑭d	⑮d	⑯d	⑰d	⑱d	⑲d	⑳d	㉑d	㉒d	㉓d	㉔d	㉕d	㉖d	㉗d	㉘d	㉙d	㉚d	㉛d	㉜d	㉝d	㉞d	㉟d	㊱d	㊲d	㊳d	㊴d	㊵d	㊶d	㊷d	㊸d	㊹d	㊺d	㊻d	㊼d	㊽d	㊾d	㊿d
4	4	4	4	①e	②e	③e	④e	⑤e	⑥e	⑦e	⑧e	⑨e	⑩e	⑪e	⑫e	⑬e	⑭e	⑮e	⑯e	⑰e	⑱e	⑲e	⑳e	㉑e	㉒e	㉓e	㉔e	㉕e	㉖e	㉗e	㉘e	㉙e	㉚e	㉛e	㉜e	㉝e	㉞e	㉟e	㊱e	㊲e	㊳e	㊴e	㊵e	㊶e	㊷e	㊸e	㊹e	㊺e	㊻e	㊼e	㊽e	㊾e	㊿e
5	5	5	5	①a	②a	③a	④a	⑤a	⑥a	⑦a	⑧a	⑨a	⑩a	⑪a	⑫a	⑬a	⑭a	⑮a	⑯a	⑰a	⑱a	⑲a	⑳a	㉑a	㉒a	㉓a	㉔a	㉕a	㉖a	㉗a	㉘a	㉙a	㉚a	㉛a	㉜a	㉝a	㉞a	㉟a	㊱a	㊲a	㊳a	㊴a	㊵a	㊶a	㊷a	㊸a	㊹a	㊺a	㊻a	㊼a	㊽a	㊾a	㊿a
6	6	6	6	①b	②b	③b	④b	⑤b	⑥b	⑦b	⑧b	⑨b	⑩b	⑪b	⑫b	⑬b	⑭b	⑮b	⑯b	⑰b	⑱b	⑲b	⑳b	㉑b	㉒b	㉓b	㉔b	㉕b	㉖b	㉗b	㉘b	㉙b	㉚b	㉛b	㉜b	㉝b	㉞b	㉟b	㊱b	㊲b	㊳b	㊴b	㊵b	㊶b	㊷b	㊸b	㊹b	㊺b	㊻b	㊼b	㊽b	㊾b	㊿b
7	7	7	7	①c	②c	③c	④c	⑤c	⑥c	⑦c	⑧c	⑨c	⑩c	⑪c	⑫c	⑬c	⑭c	⑮c	⑯c	⑰c	⑱c	⑲c	⑳c	㉑c	㉒c	㉓c	㉔c	㉕c	㉖c	㉗c	㉘c	㉙c	㉚c	㉛c	㉜c	㉝c	㉞c	㉟c	㊱c	㊲c	㊳c	㊴c	㊵c	㊶c	㊷c	㊸c	㊹c	㊺c	㊻c	㊼c	㊽c	㊾c	㊿c
8	8	8	8	①d	②d	③d	④d	⑤d	⑥d	⑦d	⑧d	⑨d	⑩d	⑪d	⑫d	⑬d	⑭d	⑮d	⑯d	⑰d	⑱d	⑲d	⑳d	㉑d	㉒d	㉓d	㉔d	㉕d	㉖d	㉗d	㉘d	㉙d	㉚d	㉛d	㉜d	㉝d	㉞d	㉟d	㊱d	㊲d	㊳d	㊴d	㊵d	㊶d	㊷d	㊸d	㊹d	㊺d	㊻d	㊼d	㊽d	㊾d	㊿d
9	9	9	9	①e	②e	③e	④e	⑤e	⑥e	⑦e	⑧e	⑨e	⑩e	⑪e	⑫e	⑬e	⑭e	⑮e	⑯e	⑰e	⑱e	⑲e	⑳e	㉑e	㉒e	㉓e	㉔e	㉕e	㉖e	㉗e	㉘e	㉙e	㉚e	㉛e	㉜e	㉝e	㉞e	㉟e	㊱e	㊲e	㊳e	㊴e	㊵e	㊶e	㊷e	㊸e	㊹e	㊺e	㊻e	㊼e	㊽e	㊾e	㊿e

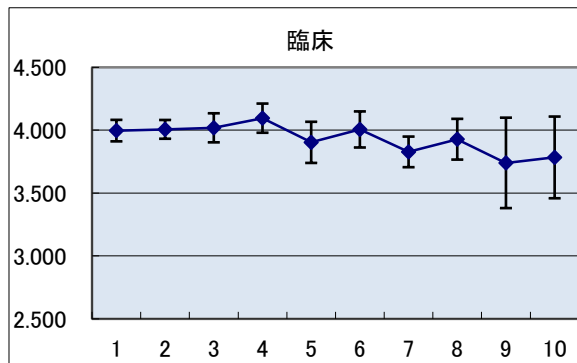
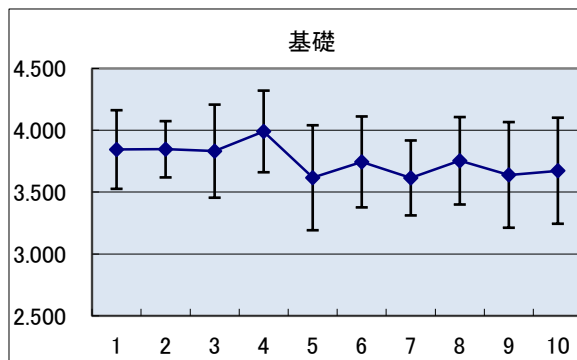
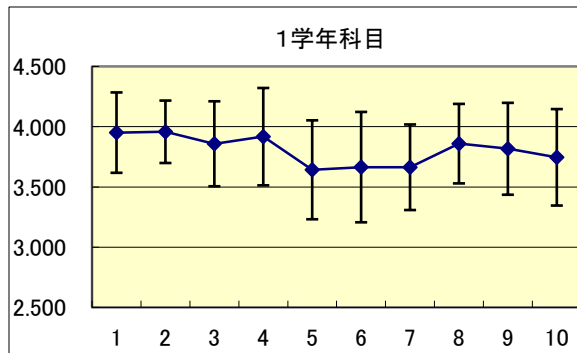
① H B の鉛筆で濃くマークして下さい。
② 消す時は消しゴムで完全に消して下さい。

裏

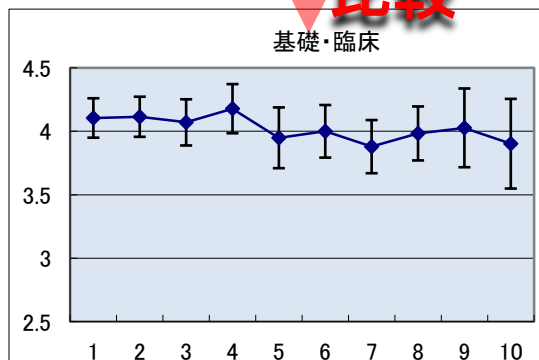
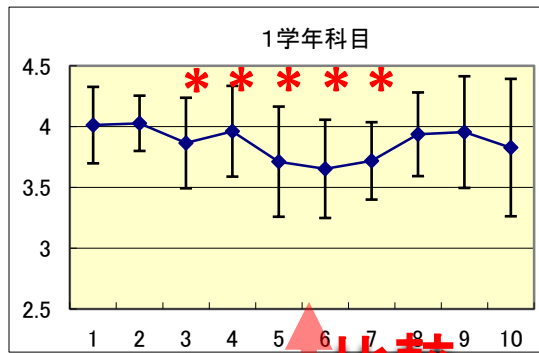
自由意見記載欄

学生による授業企画評価(医学部)(設問別平均±S. D.)

平成13年度



平成19年度



平均 ばらつき

小 大

^ v

大 小

比較

ここに
課題
あり



- 「科目全体の講義企画に対する評価」
- [設問1] 授業科目全体の構成は適切であったか
 - [設問2] 講義とシラバスとは相関していたか
 - [設問3] 講義の内容は意欲的であったか
 - [設問4] 学んだ内容は価値があったか
 - [設問5] 講義内容は理解しやすかったか
 - [設問6] 講義によって勉学意欲が促されたか
 - [設問7] この科目に関し知識が十分得られたか
 - [設問8] 科目の教材は良く準備されていたか
 - [設問9] 試験問題の量は適切か
 - [設問10] 試験問題の内容は適切か

なぜ1学年科目(主に一般・教養教育科目)に 対する興味がないのか？

専門科目 → 国家試験と直接関連し、焦点がはっきりしている

一般・教養教育科目 → 理念が曖昧、国家試験範囲でないととらえられる

何が重要かの判断ができない(特に入学後の若い学生)

入学から卒業まで
の医療一貫教育
を目指す

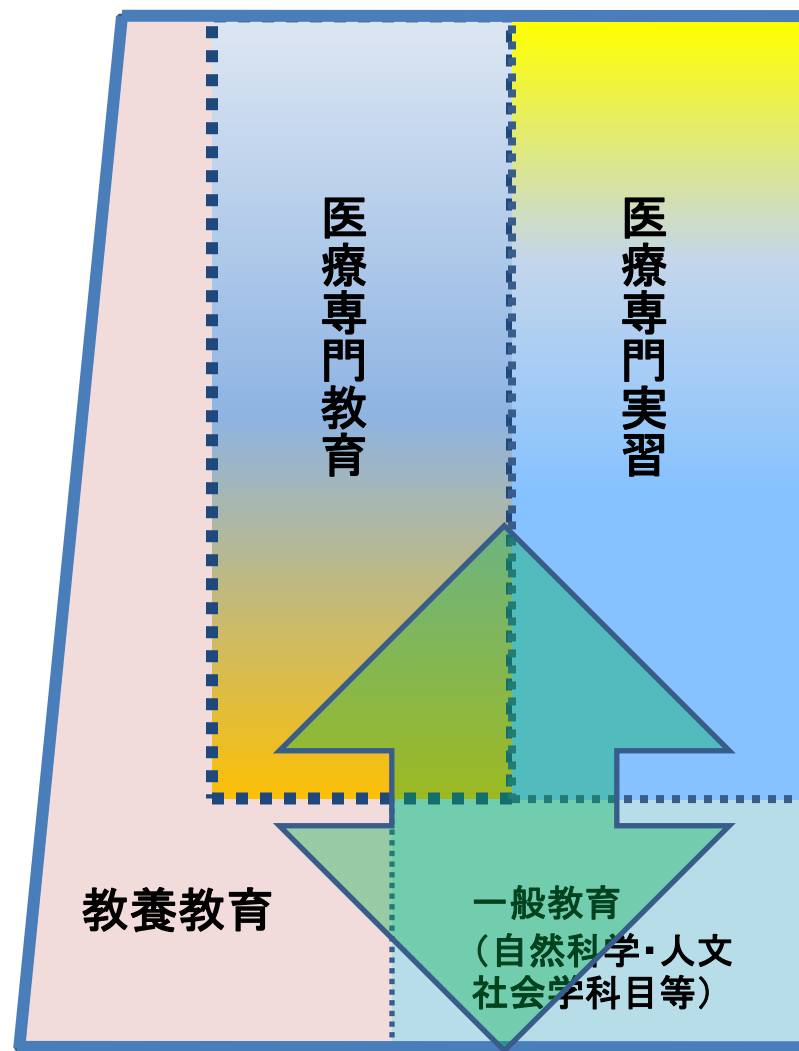
- 受験時の張り詰めた気持ちをゆるめる
- 明確な教育目的を示す
- 教育内容を見直す
- 必要以上の記憶量を減らす
- 学生への目配り(→アドバイザー制の導入)
- 両学部共通科目を導入
- 統合カリキュラムの発展

一貫教育を考える必要がある(？)

学部一貫教育：全体の中での各科目の位置づけを明確に

<視点>

- 教育評価の実施・分析・改善
- 学生意識の把握



1年次から学生のモチベーション向上を

ベストティーチャー賞表彰の導入(H23年度開始)

ベストティーチャー賞の実施について

1 趣旨及び目的

本学（**札幌医科大学教育評価委員会（委員長：学長）**）では、**学生にとってより分かりやすい、充実した質の高い講義を行うことを各教員に積極的に意識してもらうため**、学生による投票で評価の高い教員を表彰し、インセンティブを与える「**ベストティーチャー賞**」を今年度より導入します。

2 対象となる教員（別添一覧表参照）

投票の対象は、今年度（平成23年度）の両学部1学年から4学年までの「講義・演習（実習、PBLを除く。）」を担当している教員（本務教員）とします（1回でも講義等をしていれば対象とします。）。

3 投票できる学生

本学医学部及び保健医療学部の**第1学年から第4学年まで**の学生。

4 実施方法

（1）実施時期

半期ごとに投票を実施する（前・後期の各1回実施）

（2）投票用紙

裏面の「**ベストティーチャー賞投票用紙**」により、**無記名**で行います。次の**注意事項**に留意して投票してください。

投票にあたっての注意事項

- ① 「人気投票」とは違うので、**個人的な好き嫌いで選ばないこと。**
- ② **具体的な理由が書かれていない場合は無効**とします。
- ③ 記入する人数は、**最大5名まで。**
- ④ 教員氏名は、**原則、フルネームで記入**すること（シラバスなどを参考に記入）

（3）回収期間及び方法

回収期間（期限）は、原則として、投票用紙の配布後、一週間を目途とします。

また、**回収箱を医学部東棟の北第1講義室、北2第講義室、南第1講義室、南第2講義室、保健医療学部棟2F～6F各フロアに1ヶ所ずつ及び学務課（2F）出入口前に設置**しますので、各自の責任のもと、投函してください。

ベストティーチャー賞 投票用紙

ベストティーチャー賞投票用紙（前期用）

学 部	学 年
医 ・ 保	

※○で囲む。

※学年を記入する。

1 良かった教員（今年度（平成23年度）前期に授業を受けた中で）

教員氏名	科目名	選んだ理由
<例> 札医 太郎	良かった教員学	講義がわかりやすく、疑問や質問などにも丁寧に答えてくれるから

<投票に当たっての注意事項>

- ① 「人気投票」とは違うので、個人的な好き嫌いで選ばないこと。
- ② 具体的な理由が書かれていない場合は無効とします。
- ③ 記入する人数は、最大5名まで。
- ④ 教員氏名は、原則、フルネームで記入すること（シラバスなどを参考に記入）

教員の教育評価はなぜ必要か？

- 自分の長所・短所に気付く



- 改善方法を探る → 私のためのコーチ



目的: 学生の力を引き出す高い**コーチング力**を身につける

-
- **科目別到達目標にあわせ、教員各自が設問を考えることも効果的(?)**
→ 双方向性のコミュニケーション

評価結果を活用し改善を図る

個人の責任で自身の教育を考える

教員の思いを学生に伝える

更なる教育改善を目指した評価方法が必要

学生を評価する

教員を評価する

学生を評価する(評価方法改善の提案)

モチベーションを上げることを念頭に
一人一人の学生を育てるための方法としての評価を

評価項目

獲得項目

学習意欲、発展性

全科目

勉学意欲向上、学生自身の発展への気づき

グループダイナミクス

PBL、教育GP等

協調性、コミュニケーション力

人間性と想像力

PBL、実習、教育GP等

課題解決能力、自主性

プロセス
評価

評価の視点を換える

試験による総括的評価だけでなく、力を引き出すための
形成的評価も考えてください。

学生の評価方法の見直しを

研究者データベース 業績評価入力

○ 実績報告の入力

目標に掲げた事項の成果について、目標(値)に対する達成水準がわかるように、要点を簡潔に記載してください。

また、目標以外で自身が特に取り組んだ事項についても記載してください。

【記載事項】

1. 教育活動

学生講義や基礎実習・臨床実習、学部・大学院・研究生への指導の取り組みについて等

2. 研究活動

研究論文に関すること、発表に関すること、外部資金獲得・共同研究・研究活動に関すること等

3. 診療活動

診療経験や、診断・治療の成績等

4. 社会貢献

団体の代表や要職、委員会委員としての活動、講演、寄稿、地域産業NPO 支援、行政支援、公的機関の委員等

5. 大学業務

入試問題の作成・採点、大学内・病院内の委員会での活動・WG 等の活動等

業績評価(本学で実施)